

(グループ1)
1 - 2

神奈川県 難病対策地域協議会母子保健福祉委員会と連携した 個別避難計画作成支援事業

令和6年度 第4回 都道府県個別避難計画推進会議
個別避難計画作成モデル事業成果発表会

令和7年3月7日(金) 14:00～

神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 地域福祉課 地域福祉グループ
神奈川県 暮らし安全防災局防災部 危機管理防災課 応急対策グループ
神奈川県 健康医療局 小田原保健福祉事務所

○ 令和5年度までの取組

- ・ 県の福祉及び防災両部局の職員による計画未作成自治体への訪問。
- ・ 市町村福祉避難所等担当者会議の開催。
- ・ 令和5年度モデル事業にて「個別避難計画作成標準業務手順書」（神奈川県版 Step）を作成。

< 参考：個別避難計画作成状況（令和6年4月1日現在） >

- ・ 全部作成済：0
- ・ 一部作成済：28市町村
- ・ 未作成：5市町
- ・ 名簿登載者数：420,348人
- ・ 計画作成数：6,982（計画作成率1.66%）

○ 作成に向けた決意

- ・ これまで難病患者や医療的ケア児等に特化した計画作成支援に取り組んでいない。
- ・ 小田原保健福祉事務所では、以前より難病患者・医療的ケア児等の災害時の支援について課題を認識し、議論していた。
- ・ 小田原保健福祉事務所の難病患者・医療的ケア児等向けの個別避難計画作成に向けた取組をモデルとして示すことで、県内他市町村の計画作成の促進を図る。

○ アピールポイント

- ・在宅難病患者・医療的ケア児等に特化した取組。

○ 力を入れた点

- ・当事者、家族に加え、多機関が連携した取組。
- ・神奈川県版Stepに沿って、事前調整から計画作成、訓練、見直しまで行う取組。

○ 苦労したこと（工夫したこと）

- ・県と市町の情報共有。
（関係者が集まるワーキングを開催し情報のすり合わせを行った。）
- ・難病患者・医療的ケア児等の避難行動に必要な情報が多く、全ての情報を市町の計画様式に盛り込むことが難しい。
（タイムラインを作成し、本人、家族、避難支援者等の避難行動を可視化した。）

○ 計画を作成して良かったという声、訓練を実施して・参加して良かったという声

- ・「家族の声を聴いて、具体的な対応について実施してもらえたことが良かった。」
- ・「災害対策について考えたことがなかったので、一緒に考えてくれて心強かったし、自分なりに考えるようになった。」
- ・「うちの子をきっかけに支援が必要な方たちの役に立ててもらいたい。」

○ 年度当初の目標

- ・ 難病患者・医療的ケア児等向けの個別避難計画を作成する市町村を増やす。



○ 令和6年度末での取組成果・結果

- ・ 合同部会・研修会の開催（今後の取組の説明、個別避難計画作成に関する研修）
- ・ 第1回ワーキング会議（小田原保健福祉事務所と市町との情報共有）
⇒モデルケースの選定（小田原市：難病1件、医ケア児1件、湯河原町：難病1件、医ケア児1件）
- ・ 第2回ワーキング会議（モデルケースの個別避難計画作成に向けた検討）
- ・ 第3回ワーキング会議（作成した個別避難計画の修正）
⇒川崎市の職員を助言者として、本人・家族、関係者で計画を作成した。
- ・ 第4回ワーキング会議（個別避難計画の実効性を高めるための避難訓練の実施）
⇒個別避難計画を基にモデルケース2件（難病1件、医ケア児1件）の避難訓練を実施し、実施後に個別避難計画を修正した。
- ・ （予定）合同部会報告会の開催。（今年度取組の振り返りと課題の共有）
- ・ （予定）難病患者・医療的ケア児等向けのリーフレット、タイムラインの作成及び周知。
- ・ （予定）市町村福祉避難所等担当者会議でモデル事業の取組を発表。

○ 成果を得ることができた理由

- ・ 当事者、家族、関係機関が集まるワーキング会議を開催することで、関係者間で課題を共有することができ、個別避難計画の実効性を高めることができた。

○ 課題

- ・ 個人情報観点から、県と市町の情報の管理・共有の難しさを実感した。
- ・ 避難先の電源確保が保障されていない現状があり、個別避難計画を立てることの難しさを感じた。
- ・ 難病患者・医療的ケア児等が避難所へ避難しても受け入れてもらえるかわからない状況であることが明確となった。

○ 今後の方向性

- ・ モデル事業の取組を市町村福祉避難所等担当者会議等で、市町村や保健福祉事務所等へ周知し、個別避難計画の作成を推進する。

○ うまくいったこと

- ・ 関係者間で顔の見える関係性を構築できたこと。
- ・ 「個別避難計画作成標準業務手順書」（神奈川県版 S t e p）に沿って、個別避難計画の作成を経験できたこと。

○ うまくいかなかったこと

- ・ 平時からの、災害時の電源確保についての検討。
- ・ 平時における情報の管理・共有。